

## Monthly Doctor's Column

人間ドックでは眼底カメラの検査があり、視神経の状態を見ることができます。緑内障を疑う所見として視神經乳頭陥凹拡大という所見があります。(写真1) 視神經乳頭陥凹拡大とは視神經の中央の白い部分(神経纖維のない部分)が正常と比べて大きく見えることです。このような結果が出た場合、眼科を必ず受診しましょう。

眼科ではさらにOCTという機械を使い、神経纖維層の欠損がないか確認し、欠損が疑われる場合には視野検査を行います。緑内障では神経纖維層の欠損と上下逆向きに視野欠損が見られます。(写真2) 視神經乳頭の欠損と視野欠損が一致した場合緑内障と診断します。初期の緑内障では自覚症状がありません。しかし治療せずに放置しておくと視野障害が進行し失明に至ることもあります。

緑内障の病因は眼圧の上昇と言られています。ホールであれば空気圧で適切な硬さが保たれます。が、眼の場合は河水といつ水によって適切な硬さが調整されていて、こ

## 緑内障

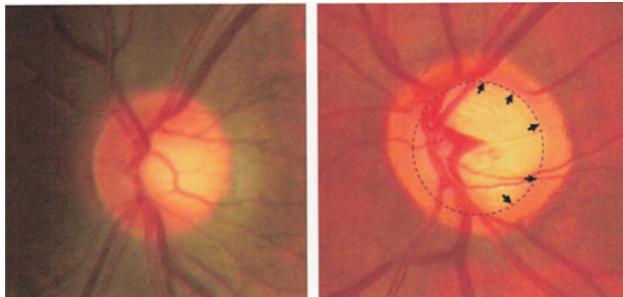


写真1. 眼底カメラでの視神經乳頭の所見(本田孔士ら、目で見る眼疾患より引用)。  
写真左の正常眼に比べて、右の緑内障眼では視神經乳頭の陥凹(へこみ)が大きい。

今月のDr.  
眼科  
Yuka Kitamura  
北村 優佳

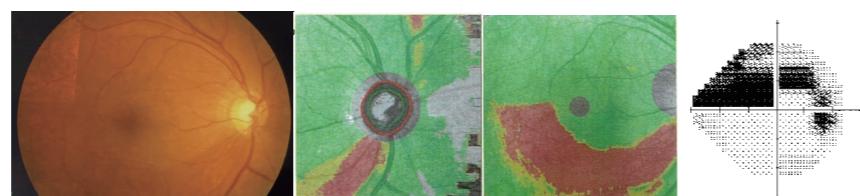


写真2. 緑内障患者の検査所見、左から眼底写真、OCT、視野検査  
眼底カメラにて視神經乳頭陥凹拡大が見られ、OCTで視神經乳頭の下方に視神經線維層の欠損が確認された。  
さらに視野検査では上方に視野障害が見られ緑内障と診断。

## INFORMATION

## 01 | 新任医師紹介

【名前】  
**神谷 雅明**  
(かみや まさあき)

【診療科】  
**消化器内科**



はじめまして(あるいはお久しぶりです)。1月から赴任した消化器内科の神谷です。私は東京で生まれ育ち、佐賀大学医学部を卒業し、大浜第一病院で初期研修と後期研修を修了しました。その後は名護市にある北部地区医師会病院で消化器内科を続け、この度、縁あってまた大浜第一病院で働くことになりました。

約7年振りになりますのでもちろん当時は変わっていることも少なからずあるかとは思いますが、自分にとってはやはり慣れ親しんだ古巣であり、また一緒に働けることをたいへん嬉しく思います。

当院の利用者や職員の皆様の力になれるよう、ひいては地域の為になれるように、誠心誠意がんばりますので、よろしくお願い致します。

- 質問：趣味は？  
回答：子供と遊ぶこと。読書(漫画)。
- 質問：大浜第一病院でやって行きたい事は？  
回答：まずは消化器内科の体制の補強から。

## 02 | セルフケア・カレッジ開催レポート

令和4年12月20日(火)に、新型コロナウィルス感染症流行に伴い中止しておりましたセルフケア・カレッジ(健康講演会)が、3年ぶりに当院ふれあいホールにて開催されました。当日は、感染拡大防止のため定員30名としておりましたが、最終的に37名の方が参加されました。

『心臓リハビリ～健康長寿のエビデンスとその実践～』をテーマに、心臓血管センター長 前田武俊医師による「リハビリってなんだろう?と言ふ話から始まり、「心臓リハビリテーション」の目的や実際に外来にて行われているプログラムについて、メディカルフィットネス科 我那覇隆志科長の講演が行われました。

心臓リハビリテーションは単なる運動療法だけではなく、医療専門職によるチームが食事療法や禁煙指導を含め、再発・再入院を防止する事を目指し、快適で活動的な生活を実現する「包括的リハビリプログラム」という事です。

新型コロナウィルス感染症の流行状況にもよりますが、セルフケア・カレッジをコロナ過以前の様に開催を行って行きたいと思います。



ご視聴は下記  
QRコードからアクセス下さい

今月の  
smile  
スマイル

2月の沖縄と言えれば  
『桜祭り』の時期ですね。  
ご存知の通り、沖縄の  
桜は本土と違い北から南  
へと南下する不思議な桜  
で、その理由は諸説ある  
ようです。これまでには、新  
型コロナウイルスの影響  
で外出も控えていました

医療コンシェルジュ・上地の  
外来より  
こんにちは

今月の新入職員看護師  
笑顔を忘れずに頑張りますので、宜しくお願ひ致します。

が、昨年後半より行動制  
が、解除されましたので、  
今年はお花見に行つてみ  
ようと思います。  
(もちろん、感染対策をし  
つかりして！)

デイケアへ  
笑顔咲く  
今日も元気に  
デイケア職員

Dr.仕垣セレクト  
医学・医療  
の名言

転んだ時には  
何かを拾ってから起き上がりなさい  
-免疫化学の創始者-  
医師・医学研究者 オズワルド・アベリー

おしり先生

## 編集後記 Text: 地域連携室 高木

一年で最も短い月がありますが、節分やバレンタインといった大きな行事やイベント等もあって、ワクワクと気分が盛り上がる月でもありますよね。当院でもコロナ禍ですが、地域の皆様の健康づくりを支援するべく、一時中断しておりましたセルフケアカレッジを再開しました。今後も定期開催をするべく頑張っていきます。



